



コマンドライン インターフェース(CLI)ガイド

ATENコントロールシステム

本書 日本語マニュアルについて

この日本語マニュアルはATEN International Co., Ltdが作成している英語版ユーザーマニュアルを、日本国内のお客様が製品をご使用になる上での便宜を図るため、ATENジャパン株式会社にて機械翻訳ベースで作成したドキュメントです。用語・表現などは公開前に人為的な修正を加えておりますが、若干の表記ゆれなどが残っている可能性がございますので、ご理解願います。また、グローバル共通のマニュアルを翻訳したドキュメントであるため、日本国内でのお取り扱いがない機種が含まれている場合がありますことを、ご了承ください。

製品の取扱説明書としての整合性は英語版ユーザーマニュアルに準ずるものですが、万が一内容に不備・誤りなどがございましたら、誠にお手数ですが、ATENジャパン株式会社までお問い合わせくださいますようお願い申し上げます。

目次

本ガイドについて	3
SSH/Telnetセッションの確立	3
SSH/Telnetコマンド	6
ヘルプ	6
エコー応答の有効化・無効化	7
Telnetタイムアウト間隔やログインの設定	8
シリアルポートの設定	9
パラメーター:	10
応答メッセージ:	11
例:	11
リレーポートの設定	12
使用法:	12
構文:	12
キーワード:	12
パラメーター:	12
応答メッセージ:	13
例:	13
I/Oポートの設定	14
使用法:	14
構文:	14
キーワード:	14
パラメーター:	14
応答メッセージ:	15
例:	15
IRの設定	16
使用法:	16
構文:	16
キーワード:	16
パラメーター:	17
応答メッセージ:	18
例:	18
再起動	19
使用法:	19
構文:	19
応答メッセージ:	19
例:	19

本ガイドについて

このガイドでは、ATENコントローラーおよび拡張ボックスをリモートで管理する際に使用する SSH および Telnet コマンドについて説明します。この機能は、VK機器本体と接続機器間の通信デバッグやトラブルシュートなど、動作確認などをする時に有効です。

重要: コマンドラインインターフェース (CLI) で行った設定は、後から ATEN Configurator (GUI) を使用してプロジェクトファイルをアップロードすると上書きされます。

SSH/Telnetセッションの確立

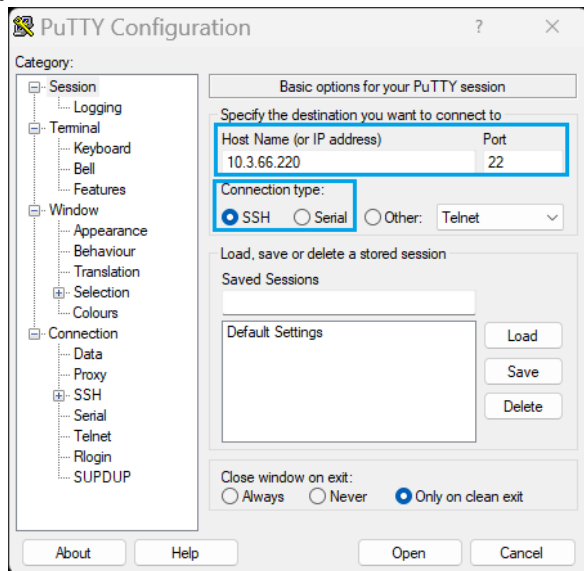
1. 対象となるATENコントローラーまたは拡張ボックスにアクセス可能なコンピューターで、SSH/Telnetクライアント (例: PuTTY) をダウンロードします。

注意: インストーラーを取得するには、ウェブブラウザで「download putty」と検索してください。

2. ダウンロードしたクライアントを実行します。
3. SSHセッションを確立するには、次の設定を使用します。

フィールド	設定
ホスト名 / IPアドレス	対象となるコントローラーまたは拡張ボックスのIPアドレス またはホスト名
接続タイプ	SSH
ポート	22

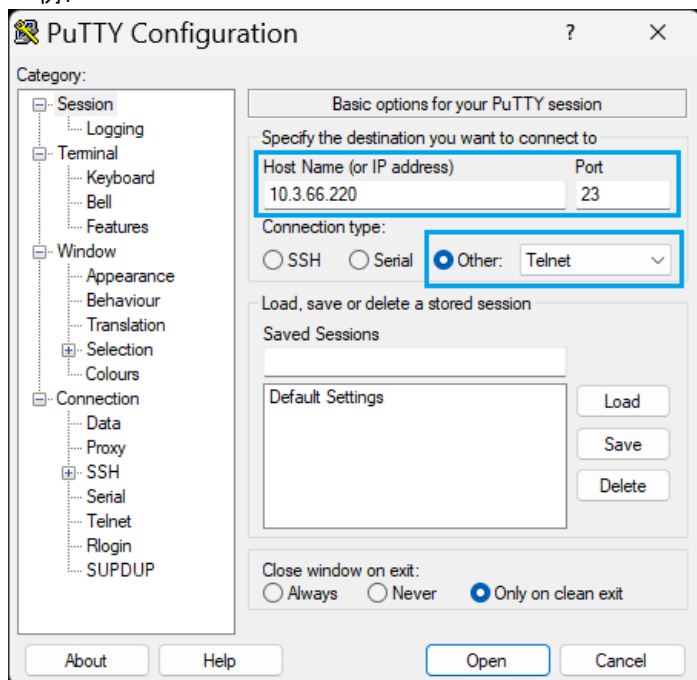
例：



4. 次の設定を使用してTelnetセッションを確立します。

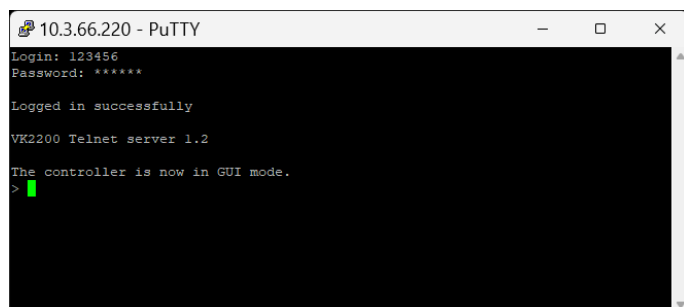
フィールド	設定
ホスト名 / IPアドレス	対象となるコントローラーまたは拡張ボックスのIPアドレスまたはホスト名
接続タイプ	その他 > Telnet
ポート	23

例：



5. 「開く」をクリックし、画面の指示に従ってログイン情報を入力してセッションを確立します。

例：



注意:セッションが確立できない場合は、ブラウザからVK本体にログインして、アクセスキーの変更が必要であるか確認してください。

SSH/Telnetコマンド

ヘルプ

使用法:

コントローラーのCLIモードを有効にする手順を表示します。

構文:

help✓

応答メッセージ:

Command OK✓ : コマンドが正しく、機能が実行されました。

Command incorrect✓ : コマンドやパラメーターが正しくないため、実行されません。

例:

help✓ : CLIモードの手順を表示します。

エコー応答の有効化・無効化

使用法:

コントローラーが受信メッセージに自動応答する機能を有効または無効にします。

構文:

echo [control]✓

パラメーター:

control: on - この機能を有効にします。

 off - この機能を無効にします(デフォルト: off)

応答メッセージ:

Command OK✓ : コマンドが正しく、機能が実行されました。

Command incorrect✓ : コマンドやパラメーターが正しくないため、実行されません。

例:

echo on✓ : コントローラーが受信メッセージに自動応答するように設定します。

Telnetタイムアウト間隔やログインの設定

使用法:

Telnet CLIモードを設定します。

構文:

```
telnet [timeout interval] [login control]✓
```

キーワード:

timeout : Telnetセッションのタイムアウト間隔またはTelnetログイン機能を設定します。

パラメーター:

interval : セッションのタイムアウト(分単位)。(0 = タイムアウトなし。デフォルト:5)

control : on – ログイン機能を有効にします(デフォルト:on)。

 off – ログイン機能を無効にします。

応答メッセージ:

Command OK✓ : コマンドが正しく、機能が実行されました。

Command incorrect✓ : コマンドやパラメーターが正しくないため、実行されません。

例:

telnet timeout 0✓ : タイムアウト間隔をタイムアウトなしで設定します。

telnet timeout 5✓ : タイムアウト間隔を5分に設定します。

telnet login off✓ : ログイン機能を無効にします。

シリアルポートの設定

使用法:

シリアルポートの制御と設定を行います。

構文:

```
serial [p sequence] [type stype] [baud baudrate] [dbit databit] [parity sparity]  
[sbit stopbit] [fctrl flowctrl] [dtype datatype] [endchar chars ] [checksumtype  
checksumtype] [acktimeout duration ] [control "data"] [help]✓
```

キーワード:

p : ポート

type: シリアルタイプ

baud : ボーレート

dbit : データビット

parity : シリアルパリティ

sbit : ストップビット

fctrl : フロー制御

dtype : データタイプ

acktimeout : タイムアウト継続時間(ms)は、sendack制御からのフィードバックを待機するのに使用します。

endchar : 特定の終了文字は、完全なメッセージを識別するのに使用し

ます。

checksumtype : コマンドのチェックサムを自動計算する必要がある場合、
チェックサムタイプを指定します。

help: ヘルプを表示します。

パラメーター:

sequence : ポート。複数ある場合はカンマで区切ります。

* (すべてのポート)

stype : 232、422、485 (デフォルト: 232)

baudrate : 300、600、1200、2400、4800、9600、19200、38400、57600、
115200 (デフォルト: 9600)

databit : 7、8 (デフォルト: 8)

sparity : none、even、odd (デフォルト: none)

stopbit : 1、2 (デフォルト: 1)

flowctrl : none、hw (デフォルト: なし)

datatype : ascii、hex (デフォルト: ascii)

checksumtype : none、modbus (デフォルト: none)

duration : 特定のタイムアウト(ms) (デフォルト: 300)

chars : 完全なメッセージの後に続く終了文字

control : read - 特定のシリアルポートの受信メッセージを表示しま
す。

write - シリアルポートからデータを送信します。データを

囲む場合は、「”」記号を使用します。Hexコードを送信する場合は、「¥x」記号を使用します。

sendack - シリアルポートからデータを送信し、受信メッセージを表示します。

応答メッセージ:

Command OK✓ : コマンドが正しく、機能が実行されました。

Command incorrect✓ : コマンドやパラメーターが正しくないため、実行されません。

例:

serial help ✓ : ヘルプを表示します。

serial p01 ✓ : シリアルポート1の設定情報を表示します。

serial p* ✓ : すべてのシリアルポートの設定情報を表示します。

serial p01 type 232 baud 115200 dbit 8 parity none sbt 1 fctrl none ✓ : ポート1におけるシリアル通信の設定を行います。

serial p01,04,07 baud 19200 ✓ : ポート1、4、7のボーレートを19200に設定します。

serial p02 baud 19200 ✓ : ポート2のボーレートを19200に設定し、他のパラメーターにはデフォルト設定を使用します。

serial p02 dtype hex read ✓ : ポート2の受信メッセージをHEX形式で表示します。

serial p02 dtype hex read ✓ : ポート2の受信メッセージをHEX形式で表示します。

serial p03 write "sw i01 o02¥r¥n" ✓ : ポート3からASCIIテキスト 'sw i01 o02'

を送信します。

serial p03 sendack "sw i01 o02¥x0D¥x0A" ✓ : ポート3からASCIIテキスト 'sw i01 o02' を送信し、フィードバックを表示します。

リレーポートの設定

使用法:

リレーポートの制御と設定を行います。

構文:

relay [p sequence] [tpulse duration] [control] [help] ✓

キーワード:

p :	ポート
tpulse :	パルスを閉じる期間
help:	ヘルプを表示します。

パラメーター:

sequence :	ポート。複数ある場合はカンマで区切ります。 * (すべてのポート)
duration :	ミリ秒単位の時間期間。
control :	open - オフにします。 close - オンにします。

pulse - リレーチャンネルを閉じてから開きます。

toggle - リレーを切り替えます。

read - ステータスを表示します。

応答メッセージ:

Command OK✓ : コマンドが正しく、機能が実行されました。

Command incorrect✓ : コマンドやパラメーターが正しくないため、実行されません。

例:

relay help ✓ : ヘルプを表示します。

relay p01 close ✓ : ポート1チャンネルを閉じます。

relay p01 open ✓ : ポート1チャンネルを開きます。

relay p01,04,07 close ✓ : ポート1、4、7のリレーチャンネルを閉じます。

relay p02 tpulse 500 pulse ✓ : ポート2を閉じて、500ms経過したら開きます。

relay p02 read ✓ : ポート2のステータスを表示します。

I/Oポートの設定

使用法:

I/Oポートの制御と設定を行います。

構文:

io [p sequence] [type iotype] [lthresh threshold] [hthresh threshold] [tpulse duration] [control] [help]✓

キーワード:

p :	ポート
lthresh :	下限しきい値
hthresh :	上限しきい値
tpulse :	パルスモードでI/Oが高レベルに留まる期間
help:	ヘルプを表示します。

注意:パラメーターが指定されていない場合、直近に入力された値が適用されます。

パラメーター:

sequence :	ポート。複数ある場合はカンマで区切ります。 * (すべてのポート)
iotype :	dry、vdc、dout

threshold: 電圧のトリガーしきい値

duration : ミリ秒単位の時間期間

control : open

 close

 pluse

 toggle

 read

応答メッセージ:

Command OK✓ : コマンドが正しく、機能が実行されました。

Command incorrect✓ : コマンドやパラメーターが正しくないため、実行されません。

例:

io help ✓ : ヘルプを表示します。

io p01✓ : I/Oポート1の設定情報を表示します。

io p*✓ : すべてのI/Oポートの設定情報を表示します。

io p01 type dry ✓ : ポート1をドライコンタクトモードに設定します。

io p01 type dout ✓ : ポート1をデジタル出力モードに設定します。

io p01 type vdc lthresh 1 hthresh 3 ✓ : ポート1をしきい値設定でvdcモードに設定します。

io p01 open ✓ : ポート1のチャンネルを開きます。

io p01 close ✓ : ポート1のチャンネルを閉じます。

io p01,04,07 close ✓ : ポート1、4、7のチャンネルを閉じます。

io p02 tpulse 500 pulse ✓ : ポート2のチャンネルを閉じて、500ms経過したら開きます。

io p02 read ✓ : ポート2のステータスを表示します。

IRの設定

使用法:

IRポートの制御と設定を行います。

構文:

```
ir [p sequence] [type irtype] [[baud baudrate] [dbit databit] [parity sparity]
[sbit stopbit] [dtype datatype] [checksumtype checksumtype] [control
"data"] [help]✓
```

キーワード:

p :	ポート
type :	特定の出力ポートの出力タイプ
baud** :	ボーレート
dbit** :	データビット
parity** :	シリアルパリティ
sbit** :	ストップビット
dtype** :	データタイプ

checksumtype** : コントローラー/拡張ボックスは、指定されたチェックサムタイプを自動計算します。

help : ヘルプを表示します。

注意:

* : このキーワードはIRタイプ用です。

** : これらのキーワードはRS-232Cタイプ用です。

パラメーターが指定されていない場合、直近に入力された値が適用されます。

パラメーター:

sequence : ポート。複数ある場合はカンマで区切ります。

* (すべてのポート)

irtype : ir、232(デフォルト: ir)

baudrate : 300、600、1200、2400、4800、9600、19200、38400、57600、115200(デフォルト: 9600)

databit : 7、8(デフォルト: 8)

parity : none、even、odd(デフォルト: none)

stopbit : 1、2(デフォルト: 1)

datatype : ascii、hex(デフォルト: ascii)

checksumtype : none、modbus(デフォルト: none)

control : write - IRコードまたはRS-232Cデータを送信します。

応答メッセージ:

Command OK✓ : コマンドが正しく、機能が実行されました。

Command incorrect✓ : コマンドやパラメーターが正しくないため、実行されません。

例:

ir help ✓ : ヘルプを表示します。

ir p01 ✓ : IRポート1の設定情報を表示します。

ir p* ✓ : すべてのIRポートの設定情報を表示します。

ir p01,04,07 type 232 ✓ : ポート1、4、7をRS-232Cタイプに設定します。

ir p01 type 232 baud 115200 dbit 8 parity none sbit 1 checksum type modbus✓ : ポート1をRS-232Cタイプに設定し、各種パラメーターの設定を行います。

ir p02 write dtype hex "0a0b0c" ✓ : ポート2からHEX形式データ0a0b0cを送信します。

ir p02 baud 19200 ✓ : ポート2をボーレート19200に設定し、他のパラメーターにはデフォルト設定を使用します。

ir p02 write "sw i01 o02¥r¥n" ✓ : ポート2からASCIIテキスト 'sw i01 o02' を送信します。

ir p02 write "sw i01 o02¥x0D¥x0A"✓ : ポート2からASCIIテキスト 'sw i01 o02' を送信します。

再起動

使用法:

コントローラーを再起動します。

構文:

reboot✓

応答メッセージ:

Command OK✓ : コマンドが正しく、機能が実行されました。

Command incorrect✓ : コマンドやパラメーターが正しくないため、実行されません。

例:

reboot✓ : デバイスを再起動します。